



## 遺 訓

1. 人生で一番大切なことは、誠実である。
1. 登米（とよま）は、私達の「家」である。
1. 人間は、いつも「初心」を忘れてはならない。

### わたなべまさひと 渡邊政人氏 略歴

明治25年12月3日	宮城県登米郡登米町大字日根牛五郎峯38番地 父徳兵衛・母かの の二男として生まれる（5人兄弟の末っ子）
明治32年4月	登米尋常高等小学校日根牛分教場（尋常科4年まで）に入学。〔玉秀寺境内にあった〕
明治40年3月	登米尋常高等小学校高等科卒業
明治44年1月2日	父他界（享年65歳）
明治44年9月	米国渡米の決心をし、渋谷同胞教会で英会話を始める。工手学校（建築）入学。併せて正則英語学校、堀口数学校、麻布学館（漢学）に通う。
大正2年11月	「建築世界社」に入社
大正3年2月	工手学校（建築）卒業。大学受験を期し、受験準備を始める。
大正4年1月	明治大学（商科）入学〔予科一年半を半年で卒業〕
大正5年4月29日	母他界（享年65歳）
大正6年12月28日	遠藤なみ〔宮城県白石市醸造会社支配人遠藤善作氏三女〕と結婚
大正7年3月	明治大学（商科）卒業〔予科半年、本科2年9月で卒業〕 東京府庁バ渡米許可願いも当時のシベリア出兵などの関係で不許可となり渡米断念。
大正7年4月	株式会社台湾銀行東京支店に入社。
大正7年9月	中外商業新聞（現在の日本経済新聞）「青年実業家白石元治郎」を見て日本鋼管就職を熱願する手紙を白石氏宛に書く。台湾銀行を退社。 日本鋼管株式会社に入社。
昭和15年9月	同社取締役就任
昭和16年3月	商工省鉄鋼価格形成専門委員
昭和17年12月	同社常務取締役就任
昭和20年12月	同社取締役副社長就任
昭和21年4月	同社取締役社長就任

昭和22年 5 月	同社退社
昭和22年10月	東京窯業株式会社取締役社長就任
昭和25年 8 月	極東マック・グレゴリー株式会社取締役社長就任
昭和32年 7 月	登米町名誉町民 東北興業株式会社総裁 拝命 東北開発株式会社総裁 拝命
昭和37年 4 月	登米町懐古館名誉館長 拝命
昭和40年 3 月	登米町渡邊奨学会会長 拝命
昭和42年10月	学校法人明治大学理事長就任
昭和50年 2 月27日	逝去（享年82歳）

## 賞及び栄誉

昭和37年 4 月	紺綬褒章 受賞
昭和39年12月	飾板木杯 受賞
昭和40年11月	民生安定功労者として宮城県知事より受賞

## 「登米」に寄せられた功績の数々

氏の人柄は温厚篤実、うちには烈々たる気迫を秘め、事に当っては細心にして大胆、不撓不屈の信念と実行力に富み、業界、地域においての信望は極めて厚かった。

それは氏が16歳の折に志を立てて故郷を後にし、朝鮮、その他の外地を転々し、その後、東京で明治大学商業部卒業するまでの苦労の中で培われた生活体験で得られたものと推察される。

日本鋼管株式会社入社以来、わが国の鉄鋼業界に残された足跡は誠に大きく、わけても大正末期から昭和初期における不況時代の民間会社相互間の生産比率の協定、生産から販売に至る一貫協定の完成などによる鉄鋼統制での不況の切り抜けは「統制」の先駆者としての名を挙げた。

戦後東北開発が本格的にスタートした際に選ばれてその開発の核である東北開発株式会社初代総裁となり、1期4カ年でその職を辞されたが、その業績は大きく、ほんとうに東北を思い、東北を愛した人として惜しまれている。

また、郷土登米町を思う気持は強く、氏神、熊野神社本殿・拝殿の新築改装、菩提寺の補修、それに北上川登米大橋不動橋架設協力があり、特に子弟の育英には力を注ぎ、別項のように町内小・中・高等学校への施設設備への援助・渡邊奨学会を設立して進学への道を拓き、さらに伊達家ゆかりの貴重な武具、書画等並びに自身の美術コレクションの数々と、それを収蔵展示する「懐古館」の寄贈等、多額の私財提供をして地方教育文化、地域社会の福祉増進に寄与された功績はまことに大きい。

1. 昭和2年11月	登米小学校日根牛分教場にオルガン寄贈	7. 昭和38年 6 月	登米町学校給食共同調理場建設基金壹百75万円寄附
2. 昭和11年 7 月	登米小学校にラジオ拡声機壺式寄贈	8. 昭和39年 6 月	財団法人登米渡邊奨学会設立資金として金壺千万円寄附
3. 昭和13年 5 月	登米小学校欠食児童給食のため実習田壺反歩寄附	9. 昭和40年10月	登米町に「愛の鐘」（金72万円）を寄附
4. 昭和15年10月	皇紀2千6百年記念として奨学基金壺万円也を寄附しその金利をもって篤行児童（卒業生）の表彰を行なう。 其の後小学校に対し金5万円増額して現在に至る。中学校に対しても金10万円の寄附を受け現在に至っている。	10. 昭和41年10月	登米中学校に対し渡邊文庫（金10万円）寄贈
5. 昭和28年 7 月	登米小学校開校80周年に当り校内放送一式を「東京とよま会」として寄附（約金35万円）	11. 昭和42年 3 月	財団法人登米渡邊奨学会基金として金5百万円を増額寄附
6. 昭和36年10月	地方文化財保存活用のため登米懐古館（金5百70万円）並びに運営基金壺百万円寄附	12. 昭和42年 6 月	宗教法人登米幼稚園運動場拡充資金として町を經由して金壺百万円を寄附
		13. そ の 他	登米町日根牛簡易水道建設資金、県立登米高等学校運動場整備資金、各種スポーツ団体、神社仏閣に対する寄附寄贈は約2百万円にのぼっている。